

## 2003年5月アルゼンチンの政治情勢

2003年6月作成  
在アルゼンチン大使館

### 1. 概要

決選投票を目前に控えた5月14日、メネム大統領候補は出馬辞退を正式に表明し、その結果、ドゥアルデ政権公認のキルチネル大統領候補の当選が確定となった。25日には、キルチネル新大統領が就任の宣誓を行うとともに、新閣僚も任命され新政権が発足した。新大統領の就任演説では、90年代モデルからの決別を訴え、具体的に、公共事業による景気回復及び雇用創出、財政均衡、汚職撲滅等を強調した。新政権発足直後から、キルチネル大統領は、軍幹部の人事において些か強引ともいえる刷新を行い反響を呼んだ一方、地方における問題解決に自ら現場に赴くなど積極的な行動も見られた。

外交面では、キルチネル新大統領の就任演説において、メルコスールの戦略同盟を強化した上で、米国及びEUとは真剣かつ成熟した関係を望むと強調したほか、マルビーナス領有権問題について、今後とも返還に向けて妥協せず主張していくと述べた。また、新外相に外交とほとんど縁のなかったビエルサを起用したのは、驚きを持って見られた。

### 2. 内政

#### (1) 大統領選挙

##### (イ) 第一回投票の公式結果

5月8日、選挙裁判所が上院に提出し承認された公式結果は以下のとおり。なお、以下の結果は、有効投票に占める割合である。

メネム候補（ペロン党、忠誠同盟） 24.45%（4,741,147票）

キルチネル候補（ペロン党、勝利のための同盟） 22.24%（4,312,528票）

ロペス・ムルフィー候補（連邦再建運動） 16.37%（3,173,485票）

ロドリゲス・サア候補（ペロン党、全国民衆同盟） 14.11%（2,763,087票）

カリオ候補（共和国平等党） 14.05%（2,723,578票）

モロウ候補（急進党） 2.34%（453,365票）

その他の候補 6.44%（1,248,215票）

##### (ロ) 決選投票－メネム候補の出馬辞退

14日、メネム候補は、急遽地元ラリオハ州に戻り、（ドゥアルデ大統領が画策した）ペロン党党内予備選挙の中止及び組織的な反メネム・キャンペーンにより決選投票に出馬できる条件が整っていないことを理由に出馬を辞退する旨表明した。他方、キルチネル候補は、同日、メネム候補の出馬辞退がほぼ確実と噂される中、記者会見を行い、メネム候補が出馬を辞退すれば、それは、我々の記憶の中で最も恥ずべきことであると批判したほか、（メネム政権が実施した）無責任な政策モデルに終止符を打つことを約束する旨強調した。

#### (2) キルチネル大統領就任

#### (イ) 就任式

25日、キルチネル新大統領は、国会で就任の宣誓を行い、正式に大統領に就任した。同式典には、フェリペ西皇太子をはじめ、ルーラ伯大統領、ラゴス智大統領、バジェ・ウルグアイ大統領、マッキ・パラグアイ大統領、トレド秘大統領、ウリベ・コロンビア大統領、サンチェス・デ・ロサダ・ボリビア大統領、チャベス・ベネズエラ大統領、カストロ・キューバ国家評議会議長などのラ米各国元首のほか、メル・マルティネス住宅・都市開発長官（米国特使）、ゲーナ上院議長（仏特使）、ウィリアム労働党上院院内総務（英国特使）、衛藤衆議院議員（日本特使）が出席した。

#### (ロ) 就任演説

国会での就任宣誓式後に就任演説が行われ、90年代のモデル（すなわちメナム政権が施行した新自由主義的経済政策）から決別し、未来は変革にある旨強調したほか、具体的に、公共事業による景気回復及び雇用創出、財政均衡、徴税の厳格化、汚職撲滅、貧困対策、治安回復、教育及び衛生分野での問題解決を挙げた。外交面では、メルコスールの戦略同盟を強化した上で、米国及びEUとは真剣且つ成熟した関係を望むと述べたほか、マルビーナス領有権問題について、今後とも返還に向けて妥協せず主張していく旨訴えた。国際問題に関しても触れて、国際テロの撲滅に向けて尽力する旨強調した。

#### (3) 省庁再編成

##### (イ) 経済・生産省

経済省と生産省の一部を統合し、経済政策、金融、財政、工業、商業、農業、畜産、漁業を管轄する。

##### (ロ) 連邦企画・公共投資・サービス省（通称、公共事業省）

公共事業を担当する各省庁の部門を統合し、運輸、通信、鉱業、エネルギー、公共事業、水道、住宅、道路、土地・水資源を管轄する。

#### (4) キルチネル政権の閣僚及び各省主要ポスト

##### (イ) 20日、閣僚名簿が発表され、25日に就任した。

- (a) 首相：アルベルト・フェルナンデス
- (b) 国防相：ホセ・パンプーロ
- (c) 社会開発相：アリシア・キルチネル
- (d) 教育・科学技術相：ダニエル・フィルムス
- (e) 経済・産業相：ロベルト・ラバーニャ（留任）
- (f) 司法・治安・人権相：グスタボ・ベリス
- (g) 内相：アニバル・フェルナンデス
- (h) 公共事業相：ファン・デビド
- (i) 外務・国際通商・宗務相：ラファエル・ビエルサ
- (j) 厚生相：ヒネス・ゴンサレス・ガルシア（留任）
- (k) 労働・雇用・社会保障相：カルロス・トマダ
- (l) 大統領府長官：オスカル・パリーリ

(ロ) 大統領府

- (a) 国家情報庁長官：セルヒオ・アセベド
- (b) 観光・スポーツ長官：ヘルマン・ペレス
- (c) 文化長官：トルクアト・ディテラ

(5) 軍

(イ) 21日付け官報に、軍幹部の人事を定めた大統領令が掲載されたところ、以下のとおり。今回の人事は、本来の任期を約半年間前倒するとともに、大幅な人事刷新となった。

- (a) 統合参謀本部長：ホルヘ・チェバリエル
- (b) 陸軍参謀長：ロベルト・ベンディーニ
- (c) 空軍参謀長：ホルヘ・ゴドイ
- (d) 海軍参謀長：カルロス・ロデ

(ロ) 21日に、ブリンソーニ陸軍参謀長の辞任式が行われ、同参謀長は、今回の人事は、20年が過ぎ政治的陰謀が蘇ったと批判した。右発言に対し、22日、キルチネル大統領は、憲法に則って軍最高司令官である大統領が決めた事項に軍が口を挟むべきではないと反論した。

(6) 恩赦

22日、同日付官報に掲載された大統領令に則り、1989年及び90年に個別に軍事蜂起し、終身刑等の有罪判決を受け刑に服していた元ゲリラ兵士及び元軍人25名が恩赦された。1989年の軍事蜂起は、ゴリアラン・メルロをリーダーとする左派ゲリラ組織「全国人民祖国運動」によるもので、陸軍施設を占拠した後、軍と戦闘を繰り広げ、全国人民祖国運動側から28名、軍及び警察から11名の計39名が死亡するに至った。他方、1990年の軍事蜂起は、セイネルディンをリーダーとする軍部内極右勢力「カラピンターダ」によるもので、軍部内の対立を理由に、陸軍施設を占拠し、戦闘の結果、14名が死亡した。両軍事蜂起により、リーダーの2名は、国家反逆罪で終身刑の判決を受けた。

(7) 地方の動向

(イ) ブエノスアイレス市

6日、イバラ市長は、市長・副市長選挙及び市議会議員選挙を8月24日、必要であれば決選投票を9月14日に実施する旨発表した。

(ロ) サンルイス州

25日、アルベルト・ロドリゲス・サアが、サンルイス州知事に正式に就任した。

(8) 汚職

(イ) 9日、オジェルビデ連邦予審判事は、デラルア政権期のバストス公共事業相を公金横領の容疑で起訴するとともに、85万ペソ(約28万ドル)相当の財産を差し押さえた。

(ロ) 29日、デラルア元大統領は、ブエノスアイレス市長当時の高速道路の経営権譲渡契約更新に絡む公金横領の疑いで、裁判所で5時間に亘って証言を行い、右容疑を否定し

た。

### 3. 外交

#### (1) 伯

(イ) 5月5日、レドラド外務次官は、伯を訪問し、次官級政策協議に出席した。同協議では、統一通貨導入の可能性を研究するため、両国の外務省及び経済省の代表からなる通貨研究機関を設置すること、遺伝子組み替え食品に表示を義務付けることで合意に達したほか、イラク情勢などの国際情勢について意見交換を行った。その他、パロシ蔵相及びアウレリオ・ガルシア大統領外交顧問とも会談した。

(ロ) 決選投票を直前に控えた7日及び8日両日、キルチネル大統領候補は、ラバーニャ経済相及びアルベルト・フェルナンデス選挙参謀とともに、伯を訪問し、ルーラ大統領と予定の時間を大幅に超えて1時間半以上に亘って会談した。右会談で、キルチネル候補は、メルコスール及び伯との経済分野だけでなく政治・社会分野も含めた戦略的関係を重視している旨強調した。その後の記者会見でも、今回の会談はすばらしいものであり、お互いのビジョンが一致したと述べた。

(ハ) 28日から30日にかけて、ビエルサ外相は、伯を訪問し、アモリン外相と2時間に亘って会談した。右会談においては、メルコスール、とりわけ、メルコスール議会の創設、貿易及び観光用の共通通貨の導入をはじめ、国連安保理改革について協議したほか、キルチネル大統領の訪伯及び両国首脳会談の日程を調整した。

#### (2) チリ

8日及び9日の両日、キルチネル大統領候補は、チリを訪問した。9日には、モネダ宮殿でラゴス大統領と約40分に亘って会談を行い、“南米の戦略的同盟”の強化というキルチネル候補の外交政策の基本概念を紹介した。また、二国間関係について、鉱物資源やアンデス山脈を越える鉄道敷設事業等に関し意見交換を行った。同会談には、亜側より、ラバーニャ経済相、アルベルト・フェルナンデス選挙参謀、デラロサ在智大使が、智側からエイサギレ蔵相が同席した。

#### (3) ウルグアイ

(イ) 8日、レドラド外務次官は、ウルグアイを訪問し、バジェ大統領と会談したほか、両国間の貿易促進のため財界要人と会合を持った。

(ロ) 14日、15日両日、ドゥアルデ大統領は、ウルグアイを公式訪問した。14日には、バジェ大統領、イエロ副大統領と個別に会談したほか、サンギネッティ前大統領、バスケス進歩会議・拡大戦線党(EP/FA)党首とも会談した。また、同日夜には、政府主催のレセプションが開催され、両国首脳、イエロ副大統領、オペルティ外相等が出席した。バジェ大統領との首脳会談では、メルコスール、FTAA、両国の経済事情等に関し協議した。今回の訪問には、アタナソフ首相、ルカウフ外相、大統領夫人が同行した。

#### (4) パラグアイ

30日、キルチネル大統領は、ドゥアルテ次期大統領と会談し、メルコスール及び三国国境地帯の安全保障について意見交換を行った。

(5) コロンビア

26日、キルチネル大統領は、ウリベ大統領と会談した。右会談において、ウリベ大統領は、キルチネル大統領に対し、ゲリラ、麻薬取引、テロといった同国が直面する問題における政治的支援を要請した。

(6) キューバ

(イ) 26日、キルチネル大統領は、カストロ国家評議会議長と1時間近くに亘って会談した。右会談では、キューバの対亜債務(16億ドル)等が取り上げられ、同議長は、かかる債務のリスケ交渉に向けて前向きな姿勢を見せた。

(ロ) 26日、カストロ議長は、国立ブエノスアイレス大学法学部で2時間30分に亘って講演し、チェ・ゲバラを賞賛した一方で、米国及びメネム元大統領を批判する発言を行った。

(7) ベネズエラ

26日、キルチネル大統領は、チャベス大統領と会談した。右会談で、チャベス大統領は、ラ米における貧困撲滅に向けて戦う必要がある旨述べたほか、ベネズエラは国営機関を通じて、亜から食料を購入することを約束した。

(8) 米国

26日、キルチネル大統領は、メル・マルティネス住居・都市開発長官(特使)と会談し、両国の一層の発展を願うブッシュ大統領のメッセージを伝達し、現在、亜国民は再び希望を抱いており、そうした希望は非常に重要である旨述べた。また、キルチネル大統領は、ブッシュ大統領からの招請を快諾し、90日以内に訪米する予定であることを伝えた。同会談には、ビエルサ外相及びアルベルト・フェルナンデス首相が同席した。

(9) 要人来往

(イ) 来訪(大統領就任式出席者を除く)

12日 イグレシアス IDB 総裁

12日 エイサギレ智蔵相及びマンテガ伯企画相

30日 ドゥアルテ・パラグアイ次期大統領

(ロ) 往訪

5日 レドラド外務次官、次官級協議に出席し、バロッシ蔵相と会談するため伯へ

6日 ルカウフ外務大臣、グラハム外相と会談し通商協定に署名するため加へ

8日 レドラド外務次官、バジェ大統領と会談するためウルグアイへ

14日 カマーニョ労働大臣及びドガ社会開発大臣、社会政策に関する会合に参加するため伯へ

14、15日 ドゥアルデ大統領、ルカウフ外務大臣及びアタナソフ首相、バジェ大統領  
と会談するためウルグアイへ

22、23日 ルカウフ外務大臣、第17回リオ・グループ首脳会議に出席するため秘へ

28-30日 ビエルサ外務大臣、アモリン外相と会談するため伯へ

(10) 6月の主要外交日程

(イ) 来訪

10日 パウエル米国務長官

23、24日 ケーラーIMF専務理事

(ロ) 往訪

8-10日 ビエルサ外務大臣、米州機構総会出席のためチリへ

11日 キルチネル大統領及びビエルサ外務大臣、伯へ

16日 ビエルサ外務大臣、国連非植民地化委員会に出席のため米へ

17-18日 キルチネル大統領及びビエルサ外務大臣、メルコスール首脳会議出席のため  
パラグアイへ